

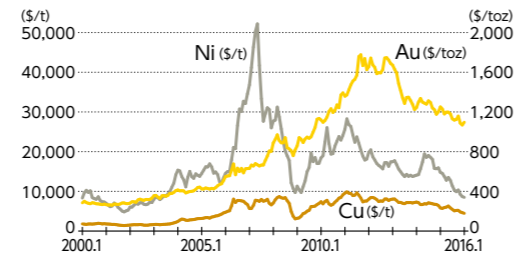
2015年度の業績と2016年度の計画

2015年度業績の振り返り

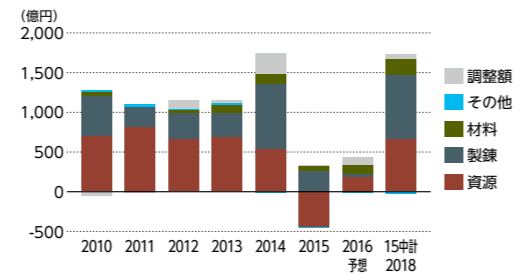
2015年度の世界経済は、中国の成長ペースが鈍化し、資源国においては経済悪化がみられました。非鉄金属価格については、銅とニッケルの価格は中国経済の減速懸念や先行きの不透明感から大幅な下落となりました。銅は前年度比20%の下落、ニッケルは前年度比38%の下落と、前年度と比較し大幅に低い水準となりました。また、前年度からの円安傾向が持続しましたが、年度末にかけては急速に円高が進みました。材料事業の関連業界では、車載用電池向け部材の需要が増加し、スマートフォン向けなどの部材もおおむね堅調な販売環境を維持しましたが、パソコンやタブレットなどでの需要低迷から在庫調整の動きがみられました。

このようななか、2015年度の売上高は、金属価格の下落などにより前年度比7%減少し、8,554億円となりました。営業利益も金属価格の下落およびこれに伴う在庫評価損の計上などにより、53%減少し597億円となりました。経常損益ではこれらに加え、シエラゴルド銅鉱山での減損損失を計上したこと、期末に

金属価格推移



セグメント損益推移



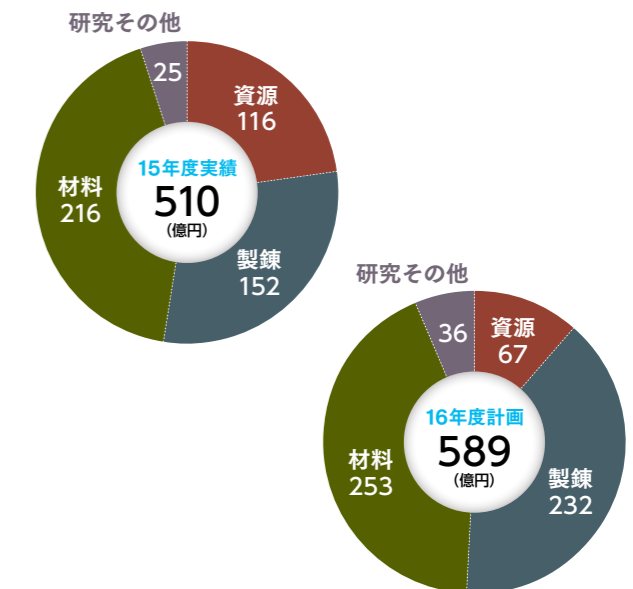
かけて急速に進んだ円高により為替差損が発生したことなどにより、128億円の損失となりました。親会社株主に帰属する当年度純損益は3億円の損失となり、13年ぶりの赤字となりました。

2016年度の計画

当社グループを取りまく事業環境のうち、非鉄金属業界につきましては、銅の需給はほぼ均衡と予想されていますが、ニッケルは価格急落に伴い生産者が減産の検討を本格化させており、供給不足に転じるものと予想されます。価格については、いずれも、中長期的には需給の改善に伴い適正な水準に回復していくと見込まれますが、中国が需要を牽引したことによるここ10年のスーパーサイクルは終焉しているため、大幅な上昇は見込めない状況にあります。材料事業の関連業界につきましては、車載・通信分野においては、一時的な調整局面はあったとしても、全般的には好調な状況が継続するものと見込まれます。

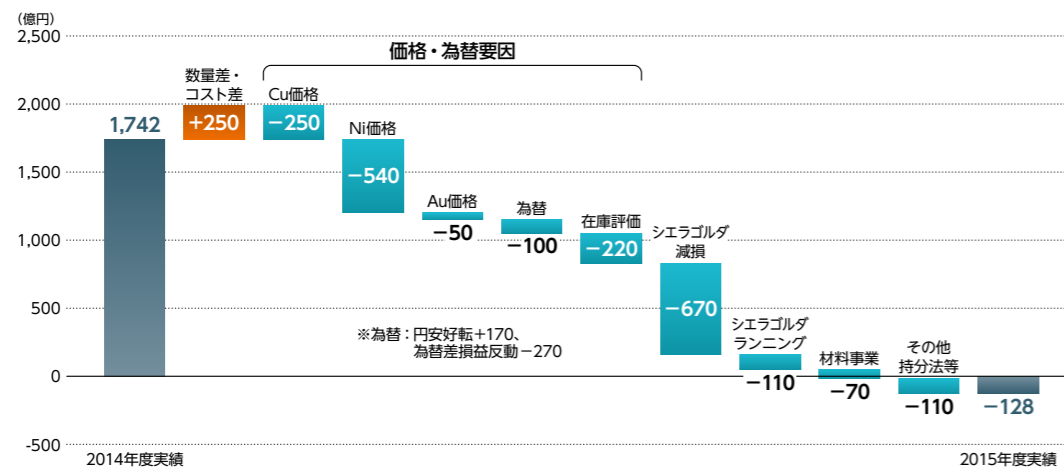
2016年度の全体の業績の見通しとしては、売上高については、販売量は増加するものの非鉄金属価格の低迷が続いているため前年度に比べて減収となる見込みであり、営業利益についても同様の要因から減益となる見込みです。経常損益については、資源セグメントの好転などから増益となる見込みです。

設備投資 (2015年度の実績と2016年度の計画)

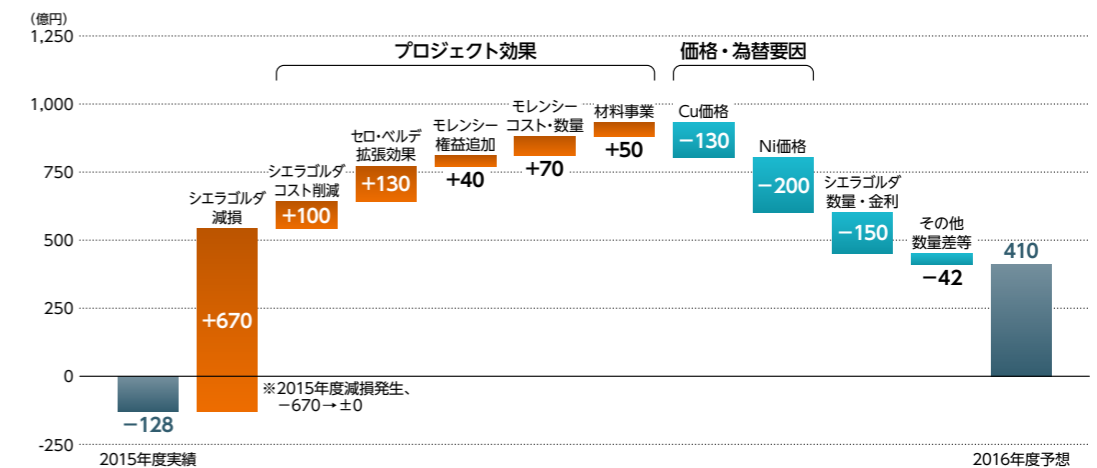


2016年度の設備投資は、2015年度実績510億円を上回る589億円を計画しています。製錬セグメントでは232億円を予定し、HPAL周辺技術の展開や銅製錬事業の競争力強化に取り組みます。材料セグメントには、特に成長が期待される電池材料・結晶材料のいち早い増強を実現するため、253億円の経営資源を配分する予定です。

経常利益分析 (2014年度実績と2015年度実績の比較)



経常利益分析 (2015年度実績と2016年度予想の比較)



資源セグメント

菱刈鉱山の操業は順調に推移しましたが、ポゴ金鉱山では鉱石の品位の低下により、前年度に比べ生産量および販売量が下回りました。モレンシー銅鉱山では、拡張工事の実施により、生産量および販売量は前年度を上回りました。シエラゴルド銅鉱山では減損処理を適用したため、持分法による投資損失を認識しました。これに加えて銅および金価格の下落などがあったため、セグメント損失となりました。

製錬セグメント

ニッケルは、電気ニッケル生産能力6万5千t/年体制のもとで前年度を上回る生産量と販売量になりました。コーラルベイは順調な操業を継続し、タグニートにおいては湧水により一時、操業に影響が出ましたが、前年度に比べ生産量および販売量は上回りました。しかしながら、ニッケル価格の下落などにより、セグメント利益は前年度を下回りました。

材料セグメント

電池材料および結晶材料は需要の増加に応じて増販することができましたが、需要の増加に対応した増産体制を構築するための費用が増加しました。また、その他の製品では顧客の在庫調整の動きが顕著となり、減販となりました。このためセグメント利益は前年度を下回りました。

資源セグメント

海外銅鉱山の権益追加取得の効果に加え、拡張投資の寄与などによる持分法による投資損益の好転などにより、前年度期に比べて増益を見込んでおります。金では、菱刈鉱山の下部鉱体の開発を着実に進めます。ポゴ金鉱山は、マインライフの延長に向けた周辺探鉱とコストカットを進めます。それ以外の海外探鉱・権益獲得活動も、金をターゲットとし、長期ビジョン達成に向けた足掛かりを作ります。

製錬セグメント

ニッケル価格の低迷による悪化に加え、円高の影響などにより、前年度に比べて減益が見込まれます。銅では、安定した製錬マージンを確保できることから、操業度の維持とコスト削減により競争力強化を図っていきます。ニッケルでは、タグニートおよびコーラルベイのHPALプラントの安定した操業を行なうことで確実にコストを下げ、利益の確保を図っていきます。また、HPALプラントからのスカンジウム回収は、販売・生産両面の取り組みを着実に進めていきます。

材料セグメント

車載・通信分野を中心に増収となるため、前年度に比べて増益を見込んでいます。材料事業では、外部環境を注視し、変化を確実に捉えて必要な対策を迅速に打つことで「目標必達」を実現し、コアビジネスとしての自立化を完遂させるべく、「選択と集中」をさらに進めます。特に電池材料・結晶材料については大型投資を計画どおりに立ち上げて顧客の要求に応え、利益に貢献させていきます。また、研究開発部門との協働や顧客との密接な関係づくりから、次の成長の担い手となる新商品の上市を狙っていきます。